

みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.
178

東北森林管理局

特集

平成31年東北森林管理局長 年頭挨拶

CONTENTS

■美しい森林づくり

地域を守り地域に守られる庄内海岸林 [庄内森林管理署]

■我が署の名所

女滝沢森林浴歩道と巨大ヤチダモ [秋田森林管理署湯沢支署]



岩手山より望む早池峰山とご来光
[東北森林管理局登山同好会提供]

特集

平成31年

東北森林管理局長 年頭挨拶

東北森林管理局長 小島 孝文



新しい年を迎え、
謹んでご挨拶を申し
上げます。
皆様方には、常日
頃、東北森林管理局
の業務運営につきまして、格別のご理解とご
協力を賜っておりますことに対し、厚くお礼
申し上げます。

東北森林管理局の管理する国有林は、管内
の国土面積の3割、森林面積の4割を占める
とともに、木材供給の約3割を担っており、
地域の国土の保全、水源のかん養、生物多様
性の保全、木材等の林産物供給などに重要な
役割を果たしていると考えております。

昨年7月豪雨や度重なる台風、北海道胆
振東部地震など、全国各地で多くの自然災害
が発生し、東北地方では8月の大雨などによ
り山地災害が発生しました。全国的に集中豪
雨等による山地災害の発生リスクが増大して

おり、被災地の早期復旧とともに、自然災害
に対する山地防災力の強化に向け、災害に強
い森林づくりを進め、緑の国土強靱化に一層
取り組んで参ります。

さて、近年、戦後造成した人工林が本格的
な利用期を迎え、国産材の利用が増加してお
ります。「伐って、使って、植える」という
森林資源の循環サイクルをしっかりと回して
いくことと同時に林業の更なる成長産業化に
向けた取り組みが重要となっております。

こうした中で、一昨年末の税制改正大綱に
より森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税
（仮称）の創設が決まりました。更に、昨年
5月には森林資源の適切な管理の実現のため
「森林経営管理法」が成立し、今年4月から
同法に基づく「森林経営管理制度」の運用を
開始することとなります。このことは、他地
域に比べても森林率が高い東北地方の地方創
生にも大きく貢献するものと考えています。
当局としても、森林環境譲与税（仮称）及び
新たな管理システムが円滑に運用されるよう

各県及び国有林野所在市町村を支援していく
考えです。

当局は、民有林との連携をより一層深め、
木材の安定供給に向けた取組みを推進すると
ともに、川上から川下まで一体となった林業
の成長産業化の実現に向け、管内25地域で締
結した森林整備協定をはじめとして管内での
林業専用道、森林作業道の共同利用及び間伐
材の共同出荷などによる効率的な木材生産と
流通に取り組んでいます。

また、人工林からの一般材のほか地域の木
材産業から需要のある青森ヒバ、高齢級秋田
杉、広葉樹などについても計画的な供給に取
り組んで参ります。

今後、地域に根ざした国有林として、公
益重視の管理経営の一層の推進に全力で取り
組んでまいりますので、引き続き、ご理解と
ご協力を賜りますようお願い致します。

最後に、皆様のご健勝とご多幸を祈念申し
上げまして、新年に当たってのご挨拶とさせ
ていただきます。

年頭所感

東北森林管理局次長・青森事務所長

中山 浩次



平成31年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
皆様方には、常日頃より、森林・林業行政、とりわけ東北森林管理局の業務運営に、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、西日本豪雨や北海道胆振東部地震、東北地方では8月の大雨など全国各地で山地災害が発生した年でした。被災地の早期復旧と近年増加する山地災害に備え、災害に強い森林づくりを進め、緑の国土強靱化に引き続き取り組んで参ります。

さて、今年4月から森林経営管理法に基づく「森林経営管理制度」の運用が開始されます。

先人の努力によって造成された人工林が本格的な利用期を迎えようとしている中、森林資源の適正な管理を図り林業の成長産業化をさらに加速させていくため、森林環境譲与税（仮称）及び新たな森林管理システムが円滑

に運用されるよう、当局といたしましても、各県及び市町村等を支援していく考えです。

東北森林管理局では、林業の成長産業化に向けた取組として、木材の安定供給のためのシステム販売を推進するとともに、伐採とその後植栽を連続的に実施する一貫作業システム、コンテナ苗を活用した再造林、列状間伐などの低コスト作業システムを積極的に推進していきます。また、林業事業者と連携して素材生産における工程管理表を作成・分析し、作業方法の改善を図るなど、林業事業者の生産性向上にも取り組んでいます。

森林の多様な整備・保全の取組みとして、昨年度から津軽、下北半島において「青森ヒバ林復元プロジェクト」をたち上げ、主に天然力を活用して人工林からヒバ林への誘導に向けた取組を実施しており、引き続き地域の関係者と連携して推進していきます。

近年、全国的にシカの生息数の増加や生息域の拡大により農林業及び生態系等に深刻な被害が発生しており、東北地方でも世界遺産地域の白神山地周辺での相次ぐ目撃情報や、早池峰山周辺での生息密度の急上昇など、その影響が懸念されています。シカの被害から主伐後の適切な再造林の実施や地域の貴重な生態系の維持を図るため、地域と連携しつつ、

センサーカメラによる監視のほか囲い罫等による捕獲強化、防鹿柵の設置など被害対策を推進していきます。

さらに、松くい虫被害やナラ枯れ等の森林病虫害の拡大や北上を阻止するため、地元自治体やボランティア団体等と連携した防除の徹底を図るとともに、青森県や岩手県内の松林で樹種転換により防除帯を形成するなど、先端地対策も実施していきます。

今後も公益重視の管理経営を推進するとともに、民有林と連携し、地域の林業・木材産業の振興に貢献できるよう取り組んで参りますので、引き続き、皆様のご理解とご協力のほど宜しくお願いいたします。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



今年度の活動を振り返って

【朝日庄内森林生態系保全センター】

当センターは、朝日山地森林生態系保護地域の保全管理を中心に、森林環境教育、庄内海岸林等の保全活動支援等を行っています。

朝日山地森林生態系保護地域の保全

本森林生態系保護地域は山形、新潟両県で約7万haが指定されており、山形県の約4万8千haが当センターの活動域となっています。保全管理に当たっては、管理委員会の設置、ボランティア巡視員による巡視活動、モニタリング調査（委託調査）を行っています。地域の関係団体（自治体、自然保護団体、山岳会、溪流釣り協議会、内水面漁協、地域住民等）に管理委員会委員、巡視員として参加いただき、順応的な保全管理を行っています。

なお、保護林制度の改正に伴い管理委員会の見直しが行われ、東北森林管理局保護林管理委員会朝日山地森林生態系保護地域部に改訂されました。部会では従前と同じく森林生態系の保護、入林者マナーの啓発、ボランティア巡視活動、モニタリング調査、人工林の天然林への誘導、その他管理に関する事項を審議します。

○朝日山地森林生態系保護地域部会を開催

五月に山形市で開催。座長の山形大学農学部菊池准教授から冒頭「森林づくり・森林再生は関係各位の参画と情報交換、またそれに基づき意思の疎通が重要であり、本会議がその場となるよう、忌憚のない意見交換をお願いしたい」と挨拶を頂き審議に切りました。モニタリング調査に対する質疑等の外、低密度状態にあるが目撃数が増えている二ホンジカについて、計画課から早池峰山や白神山地における取組の紹介や山形県から第2種特定鳥獣の管理計画策定に向けた今後の取り組みについての説明がありました。



菊池座長の挨拶

○ボランティア巡視員の活動

春季（六月）と秋季（十一月）に巡視員会議を開催しています。大きな朝日山地の管理を行うためには、登山者へのマナー啓発等巡視員による巡視活動と報告は、なくてはならないものです。春季は、巡視活動マニュアル、活動報告書の説明や「朝日山地森林生態系保護地域部会」における議論の報告等を行いました。また、二ホンジカが目撃情報の報告やダイナミック等の注意喚起を行い、安全で効果的な巡視活動となるよう意識と情報の共有をおこないました。



巡視員からの発言

秋季は、巡視員の活動報告、合同パトロールの報告、センターの活動報告を行いました。巡視員から登山道整備の基準と共有の必要性や低密度状態にある二ホンジカ等のモニタリング調査について意見が提出され、検討していくことになりました。

○朝日山地合同パトロール

当センター職員・森林管理署等職員、巡視員と一緒に巡視を行う合同パトロールを溪流コース（朝日川・九月十一日）で山形県溪流釣り協議会と実施しました。遊猟区、禁漁区ともにたき火の痕跡やゴミの放置等異常はありませんでした。また同行したモニタリング調査調査者と調査箇所や留意事項の確認を行いました。



朝日俣沢 禁漁区の渓況

○スノーモービルの走行規制

月山山麓には、自主規制による「月山特別ルール」に基づき、乗入れ区域等が決められており、隣接する朝日山地森林生態系保護地域への乗入れや樹木の損傷防止等のパトロールを関係団体等と連携し



合同パトロール中熊笹発見

て実施しています。今シーズンは、3月1回、4月2回実施し、4月28日には、スノーモービル愛好団体、羽黒自然保護官事務所、山形県みどり自然課、山形署と合同パトロールを行い、樹木、枝の損傷や区域外走行は認められませんでした。

○森林病害虫の防除

マツノククロホシハバチは、マツ類を食害し、平成23年に大朝日岳の稜線上でハイマツの被害が確認され、以降監視と防除を継続しています。今年度も被害を確認しましたが、枯死に至らしめる被害状況ではなく、過年度の被害木も生存しています。



局長が被害木を発見

○外来性植物の駆除

オオハンゴンソウは、強い繁殖力で他種を駆逐し、優占してしまう外来性植物ですが、保全利用区域に限定的に生育しており、8月初旬の開花初期時に山形署と協働し駆除しました。

なお、除去・運搬・処分方法は羽黒自然保護官事務所と協議して実施しています。

○保護林の区域標識の設置・マナー啓発、登山道のショートカット規制

朝日山地森林生態系保護地域の区域と説明を行う看板を登山道の入り口（駐車場付近）に設置しています。

また、保存地区、保全利用地区の境界を示す区域表示看板の更新を行いました。保存地区は奥山にあることが多く、4〜5時間を要し、巡視活動・マナー啓発活動しながらの登山となります。登山者の多いつづら折れの登山道にショートカット規制の表示を行い、山腹の荒廃を防止しています。



マナーガイドに目を通す登山者

○クマ剥ぎ対策検討会の開催

山形県内でもクマ剥ぎ被害が増加してきており、利用者数が多い保全利用地区内のスギ高齢大径木でも被害が発生しています。具体的な被害対策と地域区分・森林管理のあり方の検討を行うため、7月24日近隣森林管理署職員、山形県職員の参加を得て検討会を開催しました。山形署署長の挨拶後、成長物用バンドの実習を行いました。同バンドは、一般的に梱包に使われるビニールのバンドですが、結び方を工夫することで肥大成長に合わせて伸びていくため、処置回数が減り、低コストな被害対策が可能になると見込まれ、民有林も含め、経済的損失が大きいクマ剥ぎ対策として普及していくことが期待されます。



成長物用バンドの取付

○朝日自然塾

関係団体と連携・協力し、小学生の親子等を対象に、自然や森林の恩恵を体感し自然とのつきあい方を学ぶ体験活動型森林環境教育を行っています。

- ・第1回…7月7日(土)「カッチャバ湿原のトンボ観察&大井沢で一日昆虫博士」公募
- ・第2回…7月12日(木)「みんなであそぶこつタキタロウへの道」あさひ小学校
- ・第3回…7月21日(土)「プロが教えるイワナ釣り」公募
- ・第4回(今後予定)…3月9日(土)「かんじきトレッキング&月山メノウでアクセサリーづくり」公募



第1回カッチャバ湿原

また、朝日自然塾連絡協議会を開催し、関係団体の意見を頂きながら、プログラム等に工夫を重ねながら多くの方に参加していただけるよう引き続き取り組んでいきます。

○みどりの保育園

西荒瀬保育園(酒田市)は、隣接する「遊々の森」(庄内森林管理署)で「みどりの保育園」推進事業を年13回実施しています。当センターでは、きのこの駒打ち(4月)、クロマツ探険隊I(5月)、松ぼっくりのツリー作り(12月)を行いました。



第2回大鳥池登山

人工林から天然生林への誘導

朝日山地森林生態系保護地域には79箇所人工林があり、針広混交林化を図るために必要な施業を行い将来は天然生林に導くこととしていきます。誘導にあたり、効果的な更新補助作業を検証するため、刈払い等の有無を比較条件に試験地を設定し、林床植生、低層木・中層木の成長調査を行っています。6月22日に山形大学農学部菊池准教授並びに学生の協力を得て、林床植生調査(被度)と立木の成長調査を実施しました。



山形大生が成長量調査



クリスマスツリー作り



第3回イワナ釣り

平成30年度国有林野事業業務研究発表会で林野庁長官賞を受賞

11月29日(木)に農林水産省本館で開催された国有林野事業業務研究発表会において、当局から発表した2課題が林野庁長官賞(最優秀賞)に輝きました。

受賞されました皆様、おめでとうございます。

発表部門
森林技術部門

受賞者：津軽森林管理署金木支署 村野 宏樹
発表課題名：害虫の選好性を利用した丸太の虫害を軽減する極積み方法
受賞：林野庁長官賞(最優秀賞)



発表部門
森林ふれあい部門

受賞者：三八上北森林管理署(元米代東部森林管理署) 大水 香澄
米代東部森林管理署 大野由美子
大館市 農林課 千葉 泰生
発表課題名：ヤングフォレスター7始動~若い力で目指す地域林業活性化~
受賞：林野庁長官賞(最優秀賞)



美しい森林づくり



地域を守り地域に 守られる庄内海岸林

庄内森林管理署

日本海に沿って細長く位置する庄内海岸林は、北は遊佐町の吹浦、南は鶴岡市の湯野浜まで連なっていて、その規模は全長約34km、面積は約2,400ha、砂丘幅約1.5～3kmでそのうち国有林は約835haとなっています。



庄内海岸全望

庄内を守る海岸防災林造成事業
庄内海岸のクロマツ林の造成は、飛砂被害に遭ってきた歴史の中で、江戸時代中期に民生安定のためクロマツを植栽する事業から

始まりました。昭和26年からは本格的に国による砂丘造成、植栽等の防災林造成事業が開始され、今では飛砂防備保安林等に指定されており、それらの維持・管理を主体とした事業を実施しています。

庄内海岸の防災林を造成するためには、砂丘を築造して地形の整理を行い、その地形で一定程度の風力を軽減させ砂地を安定させます。その後、砂地をさらに安定させるために砂草を植栽し、クロマツの植栽を陸側から進め、保育作業を繰り返しながら成林させます。

庄内海岸林を守る地域の活動

酒田市の市街地には「日本美しの森お薦め国有林」に選定された「万里の松原自然観察教育林」があり、施設の維持管理は当署との協定締結により地元酒田市が行っております。

また、林野庁長官感謝状を受賞した実績がある「万里の松原に親しむ会」は、海岸防災林の保全や

環境整備、学校の森林環境教育活動への支援などを主な活動としており「万里の松原」が市民の憩いの場として維持される一翼を担っています。

そのほか、地元の保育園、小学校、中学校、高校の生徒達や一般市民による森林整備を庄内総合支庁等と連携しながら年間十数回行っています。



小学生による森林整備

庄内海岸林における 松くい虫被害対策

庄内海岸における松くい虫被害は、平成13年度をピークに年々減少傾向にあったものの、平成26年度以降再び増加に転じ、平成28年度には過去最大の被害となりました。

このような状況を受け、民有林と国有林が一体となった防除対策を実施するため、平成26年度に設立された「庄内海岸林松くい虫被害対策強化プロジェクト会議」などを通じた情報共有に努めています。

具体的な防除事業としては、未被害木への薬剤の樹幹注入と地上散布、被害木の伐倒くん蒸又は破碎処理、被害跡地へのクロマツ植栽などを実施し、被害木の早期発見、早期駆除に取り組んでいます。また、今年度は新たに導入されたドローンを、効率的な被害状況の把握のために活用しました。



ドローンを被害状況把握に活用

地域の生活環境を保全するため、先人達から受け継いだ庄内海岸林を、今後も地域と共に将来へ継承していきたいと思っています。

林木遺伝子銀行 110 番について

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場
遺伝資源管理課 収集管理係長

井上 晃

1 はじめに

森林総合研究所林木育種センターでは、天然記念物や巨樹、名木等の後継樹を無料で増殖するサービスを行う「林木遺伝子銀行 110 番」の取組を平成 15 年より行っています。

「林木遺伝子銀行 110 番」は、機関や個人等が所有する天然記念物や巨樹、名木等が高齢や災害で衰弱している場合、これらの機関等からの後継樹の増殖要請に応じて、さし木やつぎ木の方法により、全く同じ遺伝子を受け継いだクローン苗木を増殖するサービスを行うものです。

「林木遺伝子銀行 110 番」は、次に該当する樹木を増殖サービスの対象としています。

- (1) 林木遺伝資源として林木育種センターで保存する価値があると判断されるもの。
- (2) 天然記念物、巨樹、名木、御神木、森の巨人たち 100 選やこれらに類するもの。
- (3) 高齢等の理由により衰弱がみられるなど、後継樹を増殖すべき緊急性が高いと判断されるもの（樹種や樹齢により、さし木やつぎ木での増殖が困難な場合は除きます。）

増殖に成功したクローン苗木は、所有者へ里帰りさせるとともに、林木育種センターでも林木遺伝資源として保存し、研究材料として活用しています。全国では平成 29 年度末までに 195 件の里帰りが実施されています。

2 東北育種場の取組

東北育種場では、「林木遺伝子銀行 110 番」の利用申請を平成 30 年 10 月末までに 49 件受付ました。その中には、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の大津波の中で唯一生き残った岩手県陸前高田市・高田松原の「奇跡の一本松」も含まれています。

これまで当育種場では、所有者への里帰りを 35 件実施しました。その中から今回は、平成 30 年 4 月に里帰りした「唐崎の松」についてご紹介します。

「唐崎の松」は、新潟県新発田市にある国指定名勝「清水園」のシンボルとし



写真一 「唐崎の松」 原木

て、地域から長年にわたり親しまれてきたアカマツですが、マツノザイセンチュウの被害を受けて樹幹の一部が枯れ、樹勢が衰えていました（写真一 後に原木は枯死）。

平成 28 年 1 月に清水園を管理する北方文化博物館より要請を受け、東北育種場では同年 2 月 1 日に現地に赴き、穂木（つぎ木に用いる枝）を採取し、2 日後に当育種場でつぎ木を行いました（写真二）。



写真二 成功したつぎ木苗
(平成 29 年 6 月頃)

平成 30 年 4 月 18 日、植樹できるまでに生長した苗木 3 本の里帰りが行われ、そのうち 1 本は「唐崎の松」があった場所に植えられました（写真三）。



写真三 里帰りした「唐崎の松」

清水園の方々からは、感謝のお言葉を頂戴するとともに、里帰りした苗が長い時間をかけて育ち、「唐崎の松」が元気だった頃の景観が元に戻ることを楽しみにしていると喜んでいただきました。

今後とも「林木遺伝子銀行 110 番」の取組を通して、こうした地域の方々のご期待に応えていけるよう、さし木やつぎ木の技術を一層高めていきたいと考えております。

もし、地域で大切にされている巨樹や名木等が枯れかかっているなら、是非、東北育種場までご相談をお願い致します。



mini column

昆虫採集+標本製作のすすめ



藤里森林生態系保全センター 専門官 有本 実

春から秋にかけて、林業の現場で害虫の疑いがあるカミキリムシやキクイムシ等を採集して冷凍保存していた方、いらっしゃいませんか？ 空気がカラカラに乾燥した厳冬期、標本整理にはうってつけの季節が到来しました。今回は昆虫類の標本製作について、私なりの大まかな手法を駆け足でご紹介します。詳細は昆虫採集に関する良書が多数出版されておりますので、そちらをご覧くださいいただけますと幸いです。

【採集・殺虫・防腐処理→冷凍保存→解凍・軟化→展足・展翅・乾燥→ラベルを付けて標本箱に収納】・・・以上が一連の流れになります。標本製作の要は展足・展翅ですが、これは大雑把に言えば昆虫の脚や翅の形を整えた状態で固定し、そのまま乾燥させるのです。虫体を見栄えよく整えるには、ペフ板上で出来るだけ多くの針を使うのがコツです①。体長1cm未満の微小種は、耐震用粘着マットの上に仰向けにくっつけて、先の細いピンセツ

トで脚を優しくつまみ出します②。チョウやガは、展翅板という専用の道具を使って翅を広げます③。触角や腹部も展翅板上で針を使って整えると、美しく仕上がります。

1~2ヶ月間乾燥後、“いつどこで誰が採集し、いつ誰が同定した”というラベルを付ければ完成です。平均台④という道具で虫体やラベルの高さを揃えると、標本箱に収めた時に見やすくなります。ドイツ型標本箱⑤という気密性の高い箱に防虫剤と併せて入れれば、半永久的に保存可能ですが、年に一度は防虫剤を補充しましょう。⑥は標本を食害するナガヒョウホンムシの標本で、ラベルを読み取ると2013年6月6日、岩手県八幡平市荒屋新町の当時私が住んでいた官舎内に突如出現しました。油断禁物です。

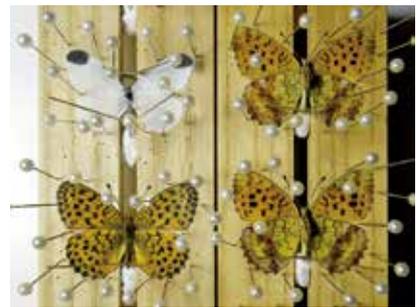
新年を迎え新たな挑戦をしてみたい方、元号が変わるのを機に今年を昆虫採集元年にしませんか!?



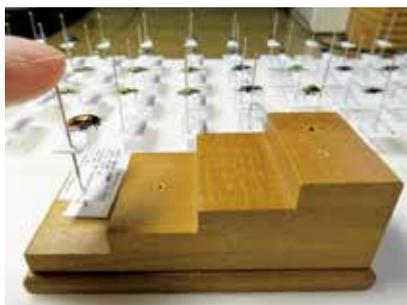
① ペフ板上で展足



② 微小種の展足 (右下は1円玉)



③ チョウ類の展翅



④ 平均台で高さを揃える



⑤ ドイツ型標本箱に収納



⑥ ナガヒョウホンムシ♀ (体長約4mm)



森林官からの手紙

先人から受け継いだ財産を継承する

米代西部森林管理署能代森林事務所 森林官補

野村 祐紀

秋田の冬も寒くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

あつという間に能代森林事務所に赴任してから一年半が経ちました。能代森林事務所は秋田県北西部の能代市と八峰町の国有林野約5千haを管理していて、ブナ林に覆われている「白神山地」、海岸防災林である「風の松原」、秋田杉等の資源が豊富な人工林など多様な林相が存在しています。それに伴って様々な業務がありますが、その一部を紹介します。

当署では秋田杉の丸太の生産を行っています。今年6年ぶりに天然秋田杉を生産しました。天然秋田杉は昭和40年代まで安定して生産され、「木都能代」の発展を支えてきましたが、資源量の減少により平成24年に供給を停止しました。今年事業の支障木等で生産することになり、能代市の銘木センターで競りにかけられました。その結果、最高値は1mあたり14万円でした（普通の杉では1mあたり1万円ほど）。



伐倒された天然秋田杉



競りにかけられる様子

その天然秋田杉の森を見たい方にオススメなのが「仁鮎水沢スギ希少個体群保護林」です。最近、北鷹高校森林環境コースの生徒を案内しました。「伐採されない天然秋田杉の森があるんだあ！」と生徒達が驚いていたのが新鮮でした。これからの林業を担う若者に森の魅力を伝えられて嬉しかったです。



仁鮎水沢スギ希少個体群保護林

余談ですが、先生から「署長さんで「すか」と聞かれ、私は28歳でまだまだ署長に

なる年齢ではないのですが、貫禄があったのか老けて見えたのかは掘り下げませんでした：

また、能代森林事務所が一番重要な事は風の松原の松くい虫の防除です。風の松原は能代の市街地を飛砂や潮風から守るため江戸時代からクロマツを植栽して造り上げられた海岸防災林で、今では市民の憩いの場となっています。しかし、平成11年に松くい虫被害が発見されてから被害が発生し続けています。毎年、秋に一ヶ月をかけて職員で調査し、冬に被害拡大防止のために被害木を伐倒駆除します。試験的にドローンによる調査も取り組んでいます。まだまだ人海戦術での調査が欠かせません。

天然秋田杉林や海岸防災林、どこにもある人工林だとしても、先人が残してくださった貴重な財産なので、次世代に継承していけるよう適切に管理して参りたいです。



人海戦術で被害木調査



歩道



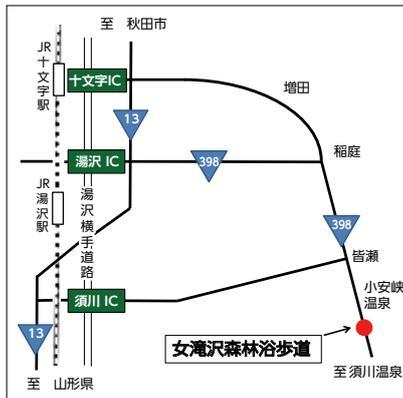
小安大噴湯



ヤチダモ



ブナ林



◎交通アクセス

- 十文字ICから車で50分
- 湯沢ICから車で40分
- 須川ICから車で30分

秋田森林管理署湯沢支署

〒012-0857
 秋田県湯沢市千石町2-2-8
 TEL 0183-73-2164
 FAX 0183-73-8768

栗駒国定公園小安峡温泉にある女滝沢森林浴歩道を紹介します。小安峡温泉と言えば随一の景勝地である通称「地獄釜」と呼ばれる大噴湯が有名ですが、その他にも温泉旅館はもちろんのこと、不動滝やとことん山など自然豊かな観光地で、新緑や紅葉の頃には多くの観光客で賑わいます。そんな中、一般にはあまり知られていませんが、ぜひお薦めしたいのが女滝沢森林浴歩道です。

歩道は約2.7kmのヤチダモ一週コースと約3.3kmの尾根道ヤチダモコースの2コースがあります。歩道は民有林と国有林に跨っており、湯沢市で管理し通路や案内標識も整備されており快適な森林浴が満喫出来ます。コースにはブナを中心とした広葉樹林が多く、ミズバショウの群生地や山野草等も豊富です。樹齢三百年以上のブナやキリの巨木や奇形木（あがりこ）、そして何と言ってもコースの名称にもなっている巨大ヤチダモがあります。全国4位の幹回りは4m以上あり堂々とした佇まいにしばし圧倒され、疲れも吹き飛ばすほどで、一見の価値あります。

冬期間は閉鎖となりますので、雪解け後、自然との一体感を求め散策されてみてはいかがでしょうか。ただ、コースの入口に標識がなくわかりづらいので、近くにある総合案内所で確認することをお薦めします。

我が署の名所

女滝沢森林浴歩道と巨大ヤチダモ

秋田森林管理署湯沢支署管内

秋田県湯沢市

